

平成二十七年十二月投句

【小倉の街 鷗外旧居など】

靴音に水銀灯の寒さかな

重ね著をしてあいづちを打つばかり

燠白く匂ひたちたる堀炬燵

勝利

古曆節くれ立ちし手もいとし

光子

茶をすすめ子供自慢や冬籠

小春日の銀座楽しみ時計買ふ

見下ろせる駅の灯や年忘

ベンガラの鷗外旧居冬ざれて

細る川今日は一羽の冬の鳥

佳与子

行きそびれをりしうどん屋年忘

真理子

お洒落など言ふておられず重ね着て

走り根に足をかけたる冬山路

鷗外の小倉の夜を着膨れて

聖書館訪ふも銀座の十二月

集会の始まる聖樹入口に

節子

ブッフエの絵の黒き描線枯木立

由紀子

鵜来て双眼鏡の間に合はず

最終はモネの「黄昏」古曆